

## ベトナム

## 景気回復ペースは加速、好調な消費がけん引

SMBC Asia Monthly

日本総合研究所 調査部  
副主任研究員 松本 充弘  
matsumoto.mitsuhiro@jri.co.jp

## ■春先の感染拡大による停滞から脱する兆し

ベトナムの2021年1~3月期の実質GDP成長率は前年同期比+5.0%と、前期(同+5.2%)に続き2期連続のプラス成長となった(右上図)。ただし、前期比(日本総研による季調値)は▲0.8%と、10~12月期にみられた景気回復(同+15.5%)の動きは一服した。テト休暇(旧正月)明けの2月上旬から3月にかけて、新型コロナの新規感染者数が急増したことを受けて、製造業を中心に休業者が急増した。労働力が不足する企業が相次いだことから、1~3月期の生産活動が抑制され、成長率の低下につながった。

その後、3月半ばをピークに感染者数が減少に転じたことで労働力の不足感は和らいでおり、生産はしっかりと回復している。4月の製造業生産指数は前年同月比+11.3%、輸出は同+25.2%と、それぞれ前月の同+9.6%、同+16.7%から伸びが加速している。

&lt;実質GDP(前年同期比)&gt;



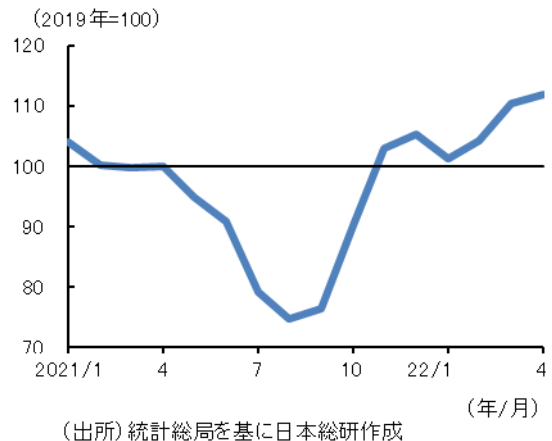
## ■ウィズコロナで期待される消費回復とチャイナ・プラスワンの動き

政府は、「ウィズコロナ」政策へ転換しており、個人消費の回復ペースは加速している。春先の感染拡大の局面でも小売・娯楽施設の人出の落ち込みは小幅にとどまった。小売売上高(サービス含む)は1月から増加が続いており(右下図)、4月も前年同月比+12%と堅調である。小売売上高の内訳をみると、全体の8割を占める財が同+4%と増加したほか、宿泊・飲食が同+15%と伸びを加速させている。一方、4月の自動車販売台数も、新車購入時の自動車登録料を半減する措置(2021年12月1日~22年5月31日まで)が大きく貢献して前年同月比+40%と大幅に増加している。

また、政府は入国制限の緩和へ動いており、3月半ばから外国人観光客の入国後の隔離措置を撤廃した。この結果、海外からの訪問者数は4月に約10万人と前月の約4万人から大きく増加した。今後はインバウンド需要を通じたサービス輸出の増加も小売業の景況を勢いづけると考えらえる。

足元では、米国が利上げペースを加速するなかで、資本流出等マネーフローの面で懸念が残る。しかしその一方で、グローバル企業がチャイナ・プラスワン(中国以外の国・地域に生産拠点を分散する経営戦略)の動きを強めるなか、ベトナムでは「ウィズコロナ」政策の下で対内直接投資の一段の増加も期待されており、資本流出懸念は他のアジア諸国に比べて軽微とみられる。

&lt;小売売上高(季調値)&gt;



当レポートに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます。当レポートは単に情報提供を目的に作成されており、その正確性を当行及び情報提供元が保証するものではなく、また掲載された内容は経済情勢等の変化により変更される事があります。掲載情報は利用者の責任と判断でご利用頂き、また個別の案件につきましては法律・会計・税務等の各方面の専門家にご相談下さるようお願い致します。万一、利用者が当情報報の利用に関して損害を被った場合、当行及び情報提供元はその原因の如何を問わず賠償の責を負いません。